

KENWOOD

【ケンウッド/日本】



本体は粘着テープでフロントウィンドーに貼り付けて装着。スタイリッシュなデザインだ。

アオリ運転や追突にも対応! 車両前後の状況を同時に録画できる2カメラ型ドラレコ

2016年度、2017年度と2年連続でドライブレコーダーの販売数1位を獲得したケンウッドの最新モデルが『DRV-MR740』だ。

取り付け性に優れたコンパクトサイズの本体にリアカメラを組み合わせた2カメラ型を採用し、車両前後の映像を同時に録画できる。

本体カメラ、リアカメラともに210万画素の1/2.7型CMOSセンサーを搭載し、フルHD(1920×1080)画質による映像記録が可能だ。しかもF1.8という夜間にも強い明るいレンズを採用し、白飛びや黒つぶれを抑えるHDR(フロントカメラのみ)機能まで搭載。JVCの

持つビデオカメラ技術、ケンウッドの持つ車載技術が数多く投入されているという。

記録映像から切り出した写真を見てもらえば実力の高さは一目瞭然だが、すみずみまで鮮明でコントラストが高く、昼夜を問わずとてもキレイだ。フロント、リアともにフルHDモデルとしては業界トップレベルの高画質。

映像再生は背面ディスプレイだけでなく、パソコン向け専用ビューソフト(Windows用、Mac用それぞれあり)でも行え、その際には前後の記録映像を同時に表示するとともにGPS、Gセンサーで取得した情報も確認で

KENWOOD DRV-MR740

価格:オープン(実勢価格:3万4000円前後)
取材協力:JVCケンウッド(phone:0120-2727-87)
※実勢価格は本誌調べ

きる。YouTubeへのアップロードも簡単だ。

また、上級モデルで好評の運転支援機能も搭載。『前方衝突警告』、『車線逸脱警告』、『発進遅れ警告』などを備え、画面と音でドライバーに注意を促す。さらに長時間運転を知らせる『リフレッシュ通知』、エコドライブを心がけられる『エコドライブ表示』、時刻や速度を表示する『情報表示モード』なども用意している。



本体背面には2.7型ディスプレイを搭載。記録中の車両前後の映像を同時に確認できる。



2ndカメラはリアウィンドーに粘着テープを使って装着。角度調整も簡単に行える。



2ndカメラ背面には『KENWOOD』のロゴ。こんなところもデザインされているのは嬉しい。

使い勝手のよさも見逃せない



本体側面には大型の操作キーが並び、画面の右端には各キーの役割を示すアイコンを表示。



16GBのマイクロSDカードを付属。定期的なフォーマット作業を促す機能も備えている。



さまざまな運転支援機能を搭載。写真は前方車両の発車を検知する『発進遅れ警告』だ。

記録映像の再生は本体またはパソコンで



背面ディスプレイで記録映像の確認ができる。サムネイル表示でファイルを選びやすい。



パソコン向けの専用ビューソフト『KENWOOD ROUTE WATCHER II(無料)』を用意している。

HDR機能で画像を見やすく自動補正

トンネルの出入口や逆光など明暗差が激しい場面で画像を自動補正するHDR機能を搭載。



豊富なラインアップを用意する



DRV-830

価格:オープン(実勢価格:2万9000円前後)

フルHDの約1.8倍の高解像度を誇るWQHD画質での映像記録が可能。長時間録画を可能とするSDXCカードダブルスロットも搭載する。



DRV-230

価格:オープン(実勢価格:1万5000円前後)

ロープライスながらフルHD記録やHDR機能搭載など基本性能が充実したモデル。従来比約20%のコンパクト化も実現している。



DRV-N530

価格:オープン(実勢価格:2万2000円前後)

同社の彩速ナビシリーズとの連携モデルで、3M画質による記録が可能。DRV-R530を組み合わせれば車両前後の映像を同時に録画できる。

昼夜を問わず鮮明で美しい映像を記録

カメラの基本スペックは本体カメラ、2ndカメラ共通。画角は水平約100°/垂直約52°/対角約111°で、1/2.7型CMOSセンサーでフルHD(1920x1080)記録が行える。クラストップレベルの高画質を誇っている。

昼間・本体カメラ



夜間・本体カメラ



昼間・2ndカメラ



夜間・2ndカメラ



DRV-MP740

価格:オープン(実勢価格:3万7000円前後)

室内撮影ができる2カメラモデルも

DRV-MR740と共通の本体を持つが、こちらは室内撮影用の赤外線LED搭載2ndカメラをパッケージしている。夜間やトンネル内も室内を明るく映すことができる。他者の乗り込みなどのトラブルが心配な人にオススメだ。

